

公衆衛生看護技術論

単位数（時間数）：2 単位（60 時間） 必修/選択：選択 履修年次：4 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・鈴木るり子

科目担当者（職位・氏名）：講師・松岡真紀子、助教・石田知世、助教・磯島実奈
非常勤講師・堀籠ちづ子、非常勤講師・齊藤由美子

対応DP：人間力 ケア・スピリット 人間の実践的理解 専門的知識・技術とその臨床実践
多職種連携・チームワーク アドボカシー

科目記号：90

■ 授業概要

公衆衛生看護における機能と技術を理解し、地域で生活する個人や家族、集団、地域を対象に看護過程の展開について教授する。また、公衆衛生看護の実践で用いる保健指導、家庭訪問、健康診断、健康相談、健康教育の技術について教授する。

■ 到達目標

1. 公衆衛生看護における機能と技術について理解し、説明できる。
2. 公衆衛生看護におけるライフサイクル別および活動展開の場で必要となる技術について理解し、説明できる。
3. 公衆衛生看護の基盤となる理論について理解し、説明できる。
4. 公衆衛生看護における保健指導、家庭訪問、健康診断、健康相談、健康教育の技術について理解し、説明できる。
5. 公衆衛生看護における地域組織活動、地域ケアシステムの構築、ネットワーク化に必要な技術について理解し、説明できる。

■ キーワード

公衆衛生看護機能、公衆衛生看護技術、公衆衛生看護理論

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	公衆衛生看護の基本理念【概論】 公衆衛生看護の対象【概論】 公衆衛生看護の歴史【概論】	オリエンテーション 講義：公衆衛生看護・公衆衛生の理念 公衆衛生看護の基盤となる概念 公衆衛生看護の対象	鈴木
2	公衆衛生看護の場【概論】	講義：行政機関、職域、学校、医療施設、福祉施設	石田
3	公衆衛生看護活動の基盤 - 理論【概論】 対人支援活動の展開	講義：基盤となる理論 展開方法および遂行方法対人支援の基本 健康相談	磯島
4	家庭訪問による支援の展開	講義：家庭訪問における保健指導記録	石田
5	母子（親子）保健活動①	講義：乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援	石田
6	母子（親子）保健活動②	講義：支援ニーズが高い親子の健康課題と支援	石田
7	母子（親子）保健活動③事例検討	講義：訪問場面での測定技術 演習：与えられた家庭訪問事例についてアセスメント～ケアプランを作成する	共同
8	母子（親子）保健活動④事例検討	講義：健康診査 演習：与えられた1歳6か月児・3歳児健康診査事例について、問診計画を作成する	共同
9	母子（親子）保健活動⑤試験	試験：作成したアセスメント～ケアプランをもとに保健師役と母親役になり演習のテストをする	共同
10	母子（親子）保健活動⑥演習	演習：作成した問診計画を基に健康診査場面の保健師役と親役になり演習をする	共同

11	母子（親子）保健活動⑦演習	演習：作成した問診計画を基に健康診査場面の保健師役と親役になり演習をする	共同
12	成人保健活動	講義：成人保健医療福祉の動向、成人期の健康課題と支援技術	磯島
13	高齢者保健活動	講義：高齢者保健医療福祉の動向、高齢者の健康課題と支援技術	松岡
14	障害者（児）保健活動	講義：障害者（児）保健医療福祉の動向、障害者（児）の健康課題と支援技術	鈴木
15	難病保健活動	講義：難病対策の動向、難病患者への支援技術	松岡
16	精神保健活動	講義：精神保健医療福祉の動向、精神障害者の健康課題と支援技術	鈴木
17	地域組織活動	講義：地域組織活動にかかわる概念、当事者組織とその支援、住民の自立支援と地域組織活動の実際、地域組織活動の歴史	磯島
18	地域ケアシステムの構築とネットワーク化	講義：地域ケアシステムの構築と評価、地域包括ケアシステムの動向、地域包括ケアシステム形成における保健師の活動、ネットワークの形成、ケアマネジメント、ケアコーディネーション	松岡
19	学校保健活動①	講義：学校保健の基本	堀籠
20	学校保健活動②	講義：学校保健における健康課題への対策と支援	堀籠
21	産業保健活動①	講義：産業保健の基本	齊藤
22	産業保健活動②	講義：産業保健における健康課題への対策と支援	齊藤
23	健康教育の計画①	講義：公衆衛生看護学実習において実施する健康教育について、計画立案と媒体案作成等を行う	石田

24	健康教育の計画②	同上	共同
25	健康教育の計画③	同上	共同
26	健康教育の計画④	同上	共同
27	健康教育の計画⑤	同上	共同
28	健康教育の計画⑥	同上	共同
29	健康教育の計画⑦	同上	共同
30	健康教育の計画⑧	同上	共同

■ 履修条件

地域看護学概論、地域看護援助論の単位を取得していること。

■ 成績評価方法

期末試験 60%、演習 20%、技術試験 20%

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・希望者に対して、試験のフィードバックを行う。希望者は、事前にアポイントを取ったうえで、科目責任者の研究室を訪ねること。

■ 教科書

- ・標美奈子他著（2022）『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 第 6 版』医学書院
- ・中村裕美子他著（2023）『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 第 5 版』医学書院
- ・中谷芳美他著（2024）『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 第 5 版』医学書院
- ・藤内修二著（2021）『標準保健師講座 別巻 1 保健医療福祉行政論 第 5 版』医学書院
- ・井伊久美子他編（2024）『新版 保健師業務要覧 第 4 版 2024 年版』日本看護協会出版会
- ・勝又浜子他編（2024）『看護法令要覧 令和 6 年版』日本看護協会出版会
- ・厚生労働統計協会編（2023）『国民衛生の動向 2023/2024』厚生労働統計協会

■ 参考書・参考資料等

- ・市村久美子他編（2018）『ヘルスプロモーション』メヂカルフレンド社
- ・宮坂忠夫他編著（2013）『最新 保健学講座 別巻 1 健康教育論』メヂカルフレンド社

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・事前学修：シラバス該当箇所のテキストおよび参考資料を読了しておくこと。
- ・事後学修：配布資料を確認し、理解に努めること。

事前・事後学修は、それぞれ 90 分程度行うこと。ただし、技術試験に合格するために十分な事後学修に努めること。

■ 担当教員からのメッセージ

本科目は、公衆衛生看護学実習に必要な技術科目です。使用する教科書も多いことから、予習復習をしっかりと行い臨んでください。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 12、rsuzuki★iwate-uhms.ac.jp、授業日の 16:30～18:00 まで。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

保健師・研究職

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

保健師の実務経験を活かし、専門的で実践的な授業を行います。